

各種の事故・災害特に日常災害に関する新聞記事調査及び統計値との比較 正会員 ○ 天神 良久**1
同 直井 英雄**2

■ 研究目的

事故・災害に対する社会一般の認識は種々の情報によって形成されるものではあろうが、その中で新聞報道による影響はかなり大きいのではないかと考えられる。本研究は、各種の事故・災害、特に日常災害に関して、新聞記事に取り上げられた割合と統計等に見られる事実との間にどの程度のずれがあるかを定量的に把握し、研究上、設計実務上などの今後の対応を考える上での一資料にすることを目的とする。

■ 研究方法

1. 最近5年間(s57.9~s62.8)の新聞(朝日新聞)から記事として取り上げられた各種の事故・災害、特に日常災害、及び比較のため自殺・他殺等を拾い出した。
2. 調査項目は、事故・災害の種類、発生年月日、被害者の年齢、性別とし、日常災害に関してはこれに加えて、発生場所、起因物、傷害機構、傷害程度、傷害部位等も調査した。
3. 上記を集計し、年度の近い人口動態統計の値と比較した。

■ 研究結果及び考察

表1は、集計した記事中の死亡者数を統計値と共に示したものの一例である。これを見ると事故・災害全体では、記事は統計値の約2%程度である。交通事故、交通事故以外、その他という大分類で記事率を比較してみると、それぞれ約2.6%, 2.3%, 1.4%となり、その他が記事としてあまり取り扱われていないことがわかる。又日常災害は、記事率約0.6%程度でかなり低いといえる。

図1, 2, 3は、事故・災害の大分類ごとに新聞と統計の死亡者割合を比較したものである。図1を見ると、交通事故のなかで記事として特に取り上げられ易い事故種類は、たまたま大事故のあった航空機を別として、水上交通事故、次いで鉄道事故で、逆に統計上は交通事故の中で90%を占める自動車事故は記事の中

表1 各種の事故・災害による死亡者数一覧表

事故・災害種類	データ区分	新聞記事	統計
	(S.57.9~S.62.8)	(S.59)	(S.59)
		死亡者(人)	死亡者(人)
総数		5,556	57,128
交通事故	総数	1,796	13,560
	鉄道	78	364
	自動車	925	12,213
	水上交通	189	357
	航空機	596	27
	その他	8	599
交通事故以外	総数	1,729	14,993
	労働災害	289	1,607
	総数	964	5,155
	日常災害	128	4,177
	墜落	31	761
	溺水	17	1,132
	転倒	1	993
	転落	0	486
	落下物など	3	84
	火傷	11	454
中毒	51	251	
その他	14	16	
非常災害	836	978	
その他	476	8,231	
その他	総数	2,031	28,575
	他殺	907	1,134
	自殺	1,042	24,344
その他他	82	3,097	

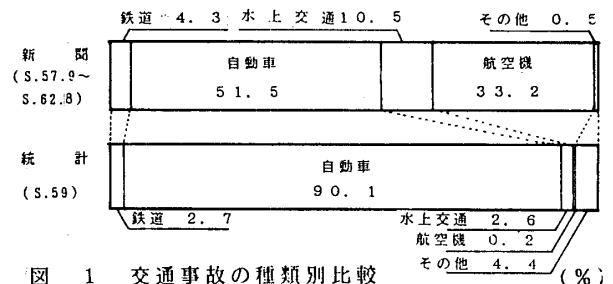


図1 交通事故の種類別比較

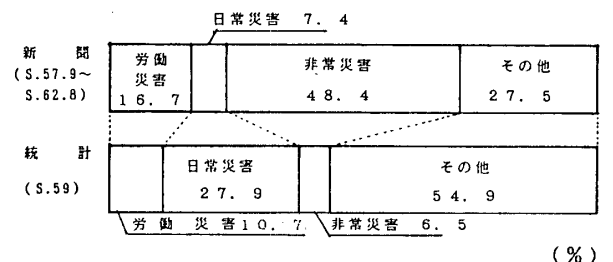


図2 交通事故以外の事故・災害の種類別比較

Survey on Newspaper Reports of Disasters and Accidents, especially of Building Related Accidents, and Comparison with Statistical Fact

では約50%ぐらいしか取り上げられていない。図2を見ると、交通事故以外の事故・災害の中では、非常災害が取り上げられ易く日常災害は取り上げられにくいことがわかる。図3を見ると、他殺が取り上げられ易く逆に統計上は約85%を占める自殺は約50%と記事に取り上げられにくい。いずれも社会的衝撃力の大きさがそのまま反映しているといえる。

図4は、これらの事故・災害の死亡者の年齢別割合を比較したものである。傾向として若年者が取り上げられ易く逆に65才以上の高齢者が取り上げられにくいことがわかる。

図5は、日常災害の種類別割合を比較したものである。墜落、中毒が取り上げられやすく転倒、転落が取り上げられにくい。これは、日常災害の事故種類の中で墜落、中毒がやや派手で衝撃が強いのにに対して、転倒、転落はきわめて日常的でやや地味であるからであろう。

図6は、日常災害の死亡者の発生建物別割合を比較したものである。学校、オフィス、ホテル等住宅以外の建物に比べ住宅の比重がかなり軽く扱われている。公的な場所での事故は社会的に重視されるが、私的な住宅事故はもともと記事になりにくいのであろう。

図7は、日常災害の死亡者の年齢別割合を比較したものである。事故・災害全体の場合(図4)の偏りをさらに強めたような傾向が見られ、特に65才以上の高齢者はきわめて記事には取り上げられにくい。

以上のグラフは死亡事故に限ったものであるが、図8は、日常災害の被害程度別割合を比較したものである。記事では重度な事故を重視しており、実際の99.6%を占める軽傷は、記事にほとんど現れないことがわかる。

■まとめ

予想された通り新聞記事は全体として事実とはかなり違った内容となっていることが分かった。また、各種の事故・災害の中では日常災害はかなり扱われにくい種類に属し、特に高齢者の転落、転倒はほとんど扱われず、このため住宅事故に対する扱い方が少ない結果となっていることなどが確認できた。

なお、本研究遂行に際しては、昨年度および一昨年度理大卒研究生高橋秀彰、縄田佳則、中尾勝博、松田政文君の協力を得たことを付記する。

*1 東京理科大学助手 *2 同大学助教授・工博

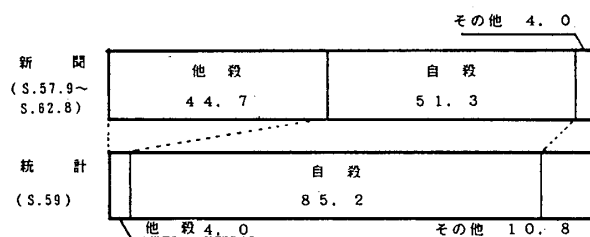


図3 その他の死亡者の種類別比較 (%)

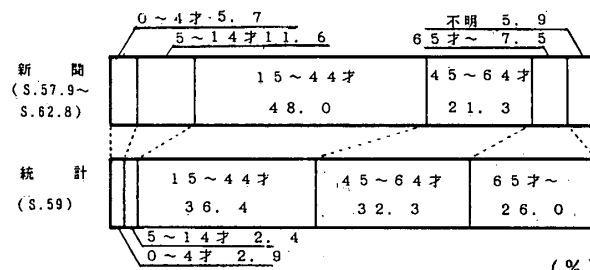


図4 各種の事故・災害による死亡者の年齢別比較 (%)

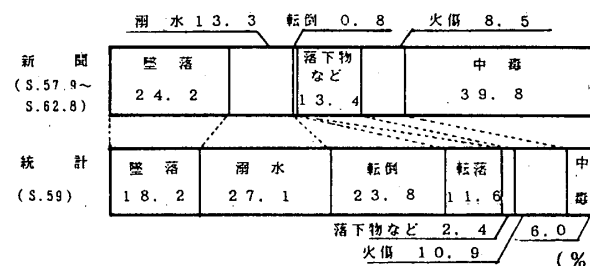


図5 日常災害による死亡者の事故種類別比較 (%)

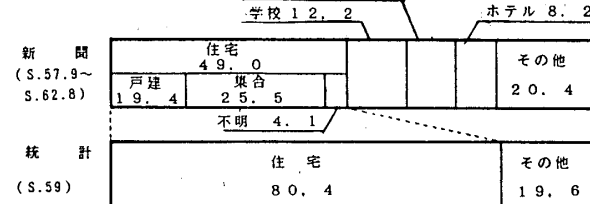


図6 日常災害による死亡者の発生建物別比較 (%)

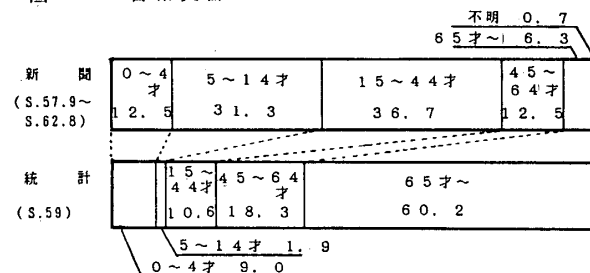


図7 日常災害による死亡者の年齢別比較 (%)

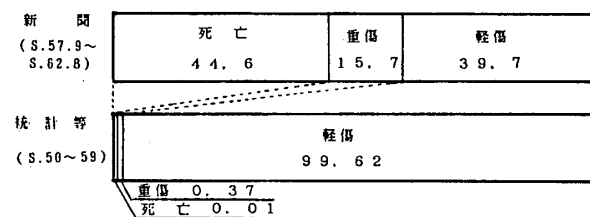


図8 日常災害の被害程度別比較 (%)